

# ニードルポイントレースの技法研究（第一報）

## —技法の種類—

水谷 みつ江

### A Study on Techniques for Needle Point Lace (Part 1)

#### —Technique—

Mitsue Mizutani

**要 旨** ニードルポイントレースは繊細で華麗な手工レースの一種である。その製作方法については詳しい専門書もなく、現在では取り組む人もほとんどいない。著者はかねてよりニードルポイントレースの作品製作をすることで研究を進めてきたが、本報告では、その製作技法の系統だった分類をし、構成要素を明らかにし、各々の技法効果を把握することを目的とした。DMC社の「手芸百科事典」より63種の基礎的なニードルポイントレースのかがり技法とつなぎ技法を取り上げ、サンプルの試作を行った。この結果ニードルポイントレースはその構成法から、63サンプル中17サンプルが面を構成するかがり技法、6サンプルが線や面を構成するかがり技法、16サンプルが線を構成するつなぎ技法と3分類出来ることがわかった。ニードルポイントレースの技法は、多様な組み合わせ方により無限に近い表現が可能であることもわかった。また、これらの技法が作品の中で意図した効果を表現できたか、適切な技法が施されたかについてモチーフ4点、襟などの作品3点をあげて検討した。その結果、かがり技法、つなぎ技法の使い分けをすることにより各々に意図した効果が認められた。

## I 緒 言

透かし模様で構成された白を基調としたレースは、その繊細で華麗なイメージと膨大な製作作業量から、ヨーロッパの王侯貴族らの権勢を示す服飾品あるいは美術品として多に愛好され17世紀には最盛期を記録していた。しかしながら手工レースは19世紀初めの機械レースの出現により衰退の一途をたどった。今日においては、手工レースは伝統として残そうとする一部の地域の人々、また数少ない金銭をいとわない愛好家のための、職人や少数の手芸家達の製作によるものに限られてきてしまっている。

身の回りの物のほとんどが工業化されてしまい、高度に複雑で均質なレースを手に入れるこ

とが可能になった今、膨大な個人の作業量に支えられた手工レースでのみしか味わうことのできない温もりある風合いの優雅なレースへの思いが人々の中にある。

広くレースに関する解説書は数多くあるが、レースに関わる研究論文は多くない。服装史におけるレース美については富樫<sup>1)</sup>が、手工レースの変遷及び概要については田母神<sup>2),3)</sup>らが、機械レースの概要については被服構成の立場から伊沢<sup>4),5)</sup>らがすでに報告している。しかし、ニードルポイントレースに限った専門書や研究論文は見あたらない。

著者はかねてより服飾手芸の立場から手工レースのひとつであるニードルポイントレースに的を当て、主に製作面で研究を進めていた。本研究では、従来経験的に理解していたニードルポイントレースの製作技法の構成要素を分析し、その特徴を把握することを目的とした。

\* 本学講師 服飾手芸

## II ニードルポイントレースとは

ニードルポイントレースというのは、手工レースのうち糸のみで構成された糸レースの一種である。(表1)

その製作に必要な材料は、針と糸のみ(時には箱枕状の作業台のピロも使用)である。

針は特別な針ではなく、糸の太さにあった針穴のものであればよい。

糸は、白色の木綿レース糸又は麻レース糸が最も良く使用されるが、針穴に通る糸状の素材であれば使用可能であり、用途により、金糸・

銀糸・絹糸・ラメ糸を用いる事もある。

ニードルポイントレースはモチーフとそれをつなぎ合わせる部分により構成される。モチーフをつなぎ手段は図1に示す通り分類することが出来た。その事例を図2に写真で示した。

ニードルポイントレースについて、本研究では図1のうち①のブリッドでつなぎ合わせたニードルポイントレースを取り上げて進めることとした。

## III ニードルポイントレースの技法分析

### 1. 目的

ニードルポイントレースの作品を製作するにあたり、その技法効果についての把握を必要とした。そのため、サンプル製作をすることにより、ニードルポイントレースの製作技法の系統的な分類をし、構成要素を明らかにすることとした。

### 2. 方法

1886年に出版されて以後、手芸家の間で古くから西洋手芸の教則本として愛用されていた「手芸百科辞典」<sup>註①</sup>より63種のニードルポイントレースの主たるかがり技法やつなぎ技法についてサンプルを試作した。(写真No. 2~40)

表1 糸レースの種類

名称	技法	器具
ニードルポイントレース	かがる	針・ピロ
ボビンレース	ねじる・交差する・より合わせる	ボビン・ピロ
クロッシュレース	編む	鉤針
タッチングレース	結ぶ	シャトル
テネリフレース	結ぶ・かがる	針(先の曲った特殊針)台
フィレース	結ぶ	網針
マクラメレース	結ぶ	
クンストレース	編む	棒針
ヘアピンレース	編む	鉤針・ヘアピン編器

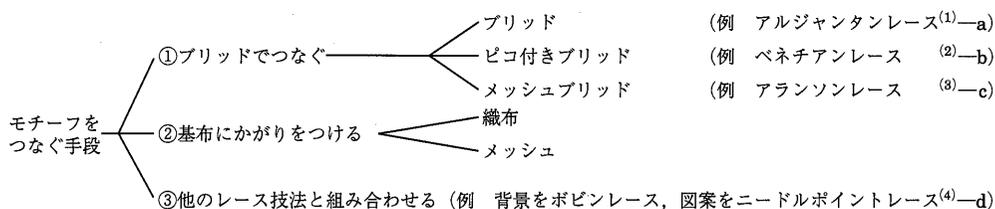


図1 モチーフのつなぎ合わせ方による分類



図2 モチーフのつなぎ合わせ方の事例

試作条件は以下の通りである。

試作条件

- 糸 16番アブローダー糸 (白色)
- 針 メリケン針 6号
- サイズ 6×3 cm (57種), その他 (6種) 技法の性質上, サンプルサイズは 6×3 cm の規格に合わせられないものが 6種あった。
- 土台 透かしの空隙量を確保するための土台作りは, 現物資料<sup>註②</sup>をそのまま参考にし, グラシン紙<sup>註③</sup>, トレッシングペーパー, 和紙 2枚, ミューズコットン 2枚, ブロード

布, シーティング布の計 8枚を重ねてピロという作業台にかがりつけた。(写真1)

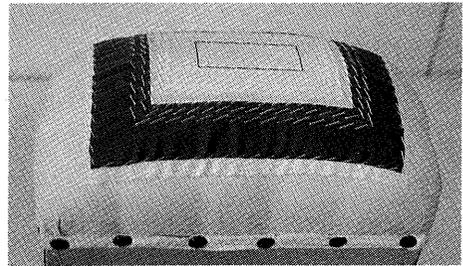


写真1 ピロ

表2 かがり技法一1

構 成	技 法 名	ホ イ ール		リーフかがり
		ラージ	スモール	
線や面を構成するかがり技法 基本的には線を構成することも可能	ダウンドリーフィンサーション			ダウンドリーフィンサーション (写真2)
	ホールインサーション	ラージホールインサーション (写真3)	スモールホールインサーション (写真4)	
	ビーズステッチインサーション (写真5)			
	ボタンホールスクウェアインサーション (写真6)			
	ハーフバーインサーション (写真7)			



写真2  
ダウンドリーフィンサーション

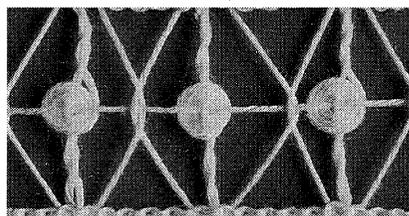


写真3  
ラージホールインサーション

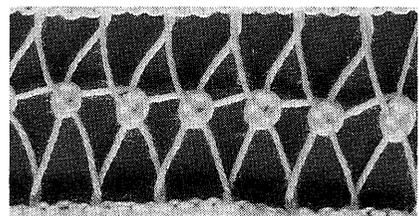


写真4  
スモールホールインサーション

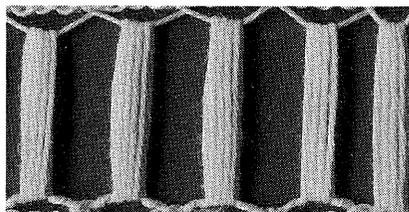


写真5  
ビーズステッチインサーション

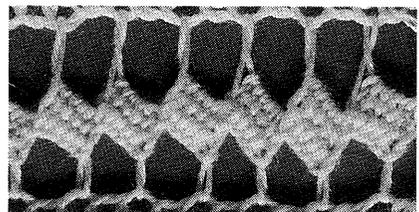


写真6  
ボタンホールスクウェアインサーション

表3 かがり技法—2

構 成	技 法 名	特 徴				
		かがり数多い	よじり	糸の引きしめ		結び
				ゆるい	きつい	
面を構成するかがり技法	かがりはじめの1段目と同 じかがり技法で2段目以降 もかがる	チェーンステッチ (写真8)	ダブルチェーンステッチ (写真11)	パーフェクトネ ットステッチ(写真12) チェーンピラミッド ステッチ(写真13) Vファイリンドグステッチ (写真14)	(写真15)	往復のかがり数が違う  ペネチアソフイリンド グ ステッチ (写真16)
	1段目はかがり技法で進み、 2段目は直線でもどる	ペネチアンレースステッチ (写真17)		(写真18)	(写真20)	
	1段目のかがり技法と2段 目のかがり技法が違ふ	アラソソソソステッチ (写真21)	メッシュステッチ (写真22)		(写真23) (写真24)	

表4 つなぎ技法

構 成	技 法 名	つなぎ技法												
		ホール	ビコット	ボタンホール	からげ	結び	プレイン	ツイスト	コラム	シングル	ダブル			
線を構成するつなぎ技法	プレインボタン ホールバー (写真25)		ループレビコットバー (写真26) プリオンビコットバー (写真27) リングビコットバー (写真28) ペネチアンビコットバー (写真29)											
	ダブルボタンホ ールバー (写真30)													
	オーバーケイス トバー (写真31)				ダブルオーバー ケイス (写真32)									
	インサージョン	ホールブララン チ インサージョン (写真33)	クラスタ インサ ージョ ン (写真34)			プレインブララン チ インサ ージョ ン (写真35)								
ヘリソグボ ン ステッチ						プレインヘリソグ ボ ン ステ ッチ (写真36)		コラムステ ッチ (写真38)						
ループレイン サ ー ン ス テ ッ チ							ツイストインサ ー ン ス テ ッ チ (写真37)		シングル イン サ ー ン ス テ ッ チ (写真39)		ダブル イン サ ー ン ス テ ッ チ (写真40)			

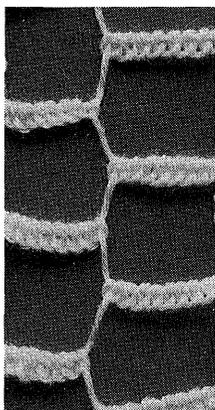


写真7  
ハーフインター  
クション

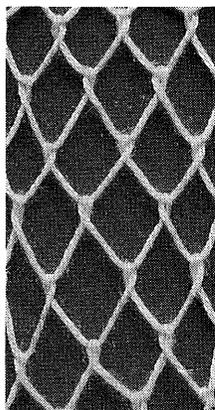


写真8  
チュールステッチ

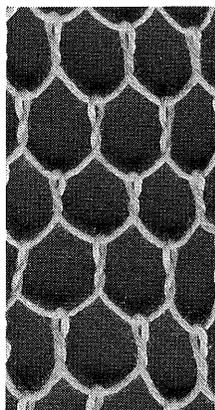


写真11  
ダブルチュールステ  
ッチ

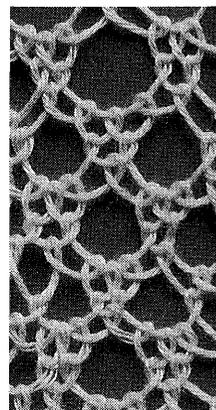


写真12  
パーフェリテッド  
ネットステッチ

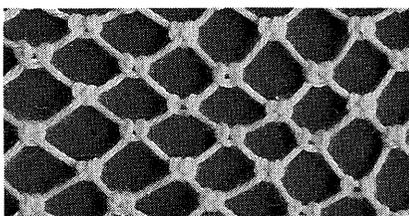


写真9 チュールステッチ (2回かがり)

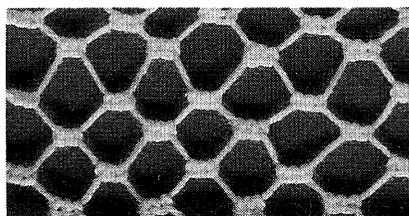


写真10 チュールステッチ (3回かがり)

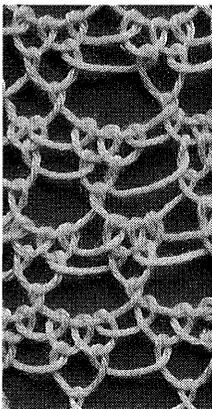


写真13  
チュールピラミット  
ステッチ

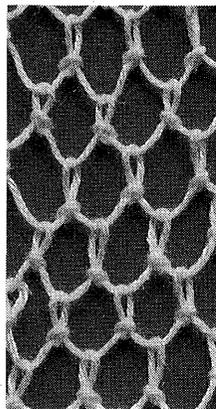


写真15  
チュールステッチ (結  
び目つき)

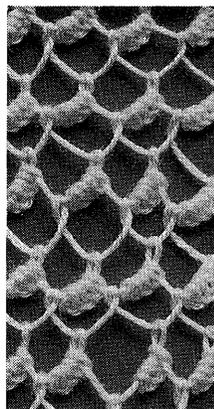


写真16  
ベネチアンフィリ  
ングステッチ

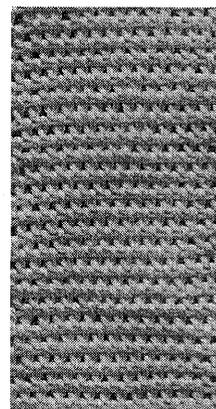


写真18  
ベネチアンレースステッチ  
(糸の引きしめがきつい)

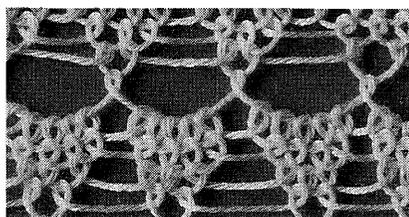


写真14 Vフィリングステッチ

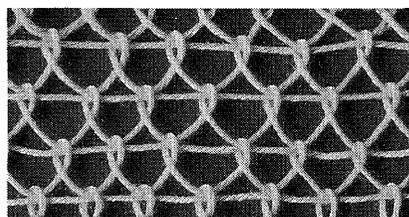


写真17 ベネチアンレースステッチ

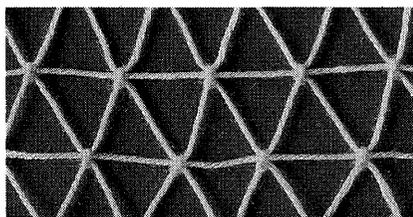


写真19 ベネチアンレースステッチ (結び目付き)

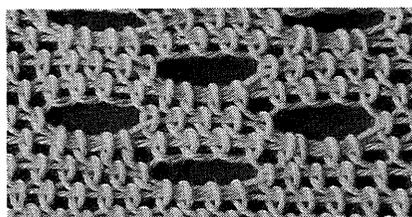


写真20 ベネチアンレースステッチ (穴あき模様)

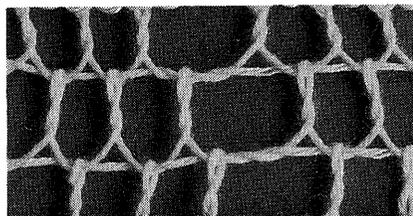


写真23 アランソールレースステッチ (3回かがり1回とぼし)

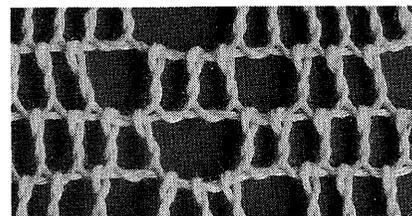


写真24 アランソールレースステッチ (3回かがり1回とぼし, 6回かがり1回とぼしのくり返し)

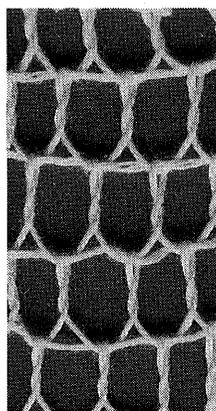


写真21 アランソールレースステッチ

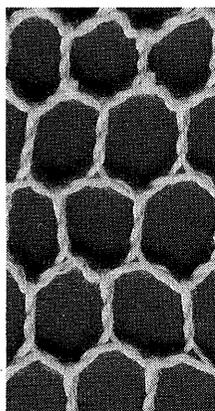


写真22 メッシュステッチ

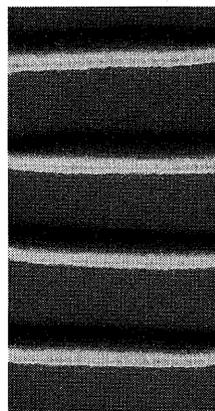


写真25 プレインボタンホールバー

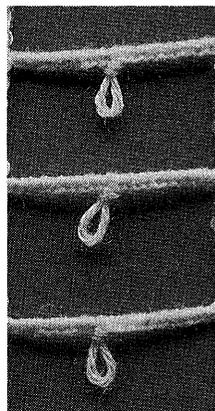


写真26 ループピコットバー

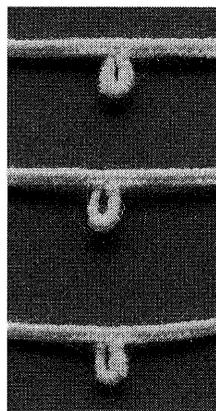


写真27 プリオンピコットバー

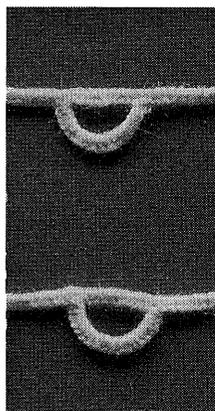


写真28 リングピコットバー

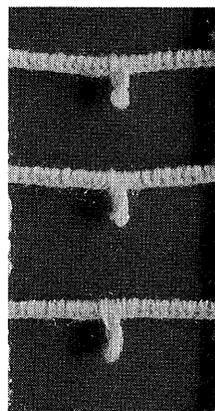


写真29 ベネチアンピコットバー

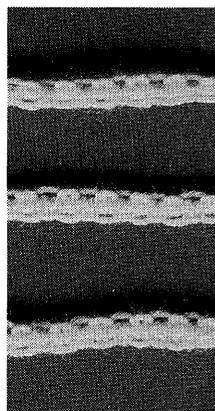


写真30 ダブルボタンホールバー

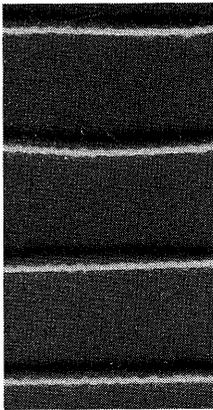


写真31  
オーバーケイストパー

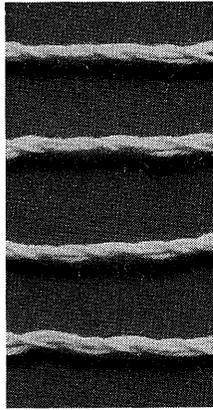


写真32  
ダブルオーバーケイ  
ストパー

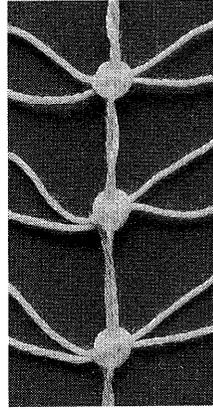


写真33  
ホイールブランチイ  
ンサーション

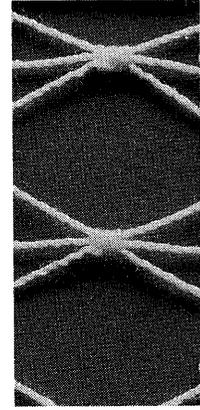


写真34  
クラスターインサー  
ション

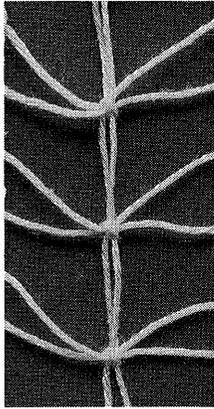


写真35  
プレインブランチイ  
ンサーション

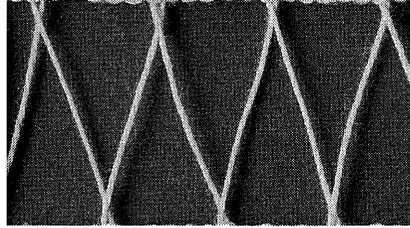


写真36 プレインヘリングボーンステッチ

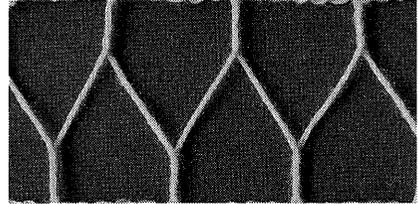


写真37 ツイストインサーションステッチ

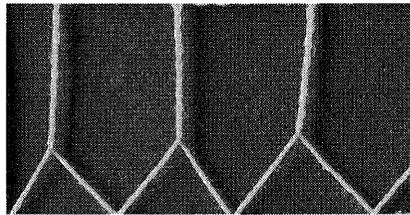


写真38 コラムステッチ

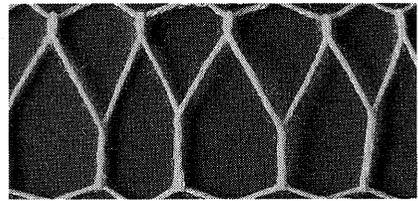


写真39 シングルループインサーション  
ステッチ

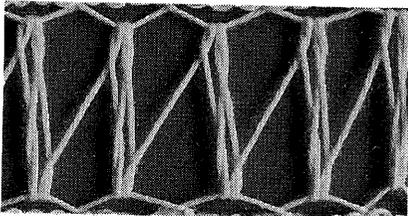


写真40 ダブルループインサーション  
ステッチ

表5 ニードルポイントレースの土台作り

土台用紙		使用目的
上	グ ラ シ ン 紙	糸のすべりを良くする
	ト レ ッ シ ン グ ペ ー パ ー	図案の保護 油性極細サインペンで図案 を描く
下	和 紙	切れにくく丈夫
	ミ ー ズ コ ッ ト ン	弾力がありミンにも強い 張りをもち、空隙量を確 保する

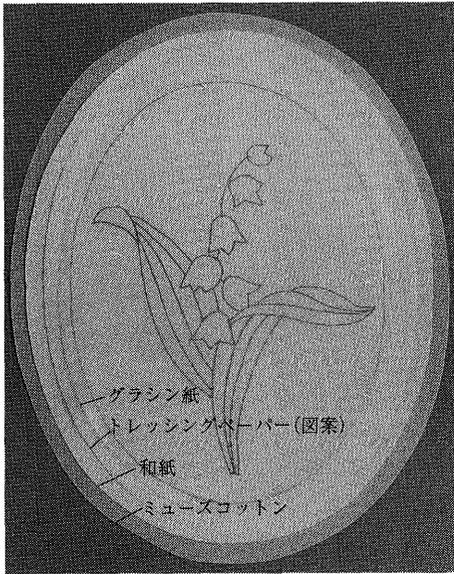


写真41 土台を作る

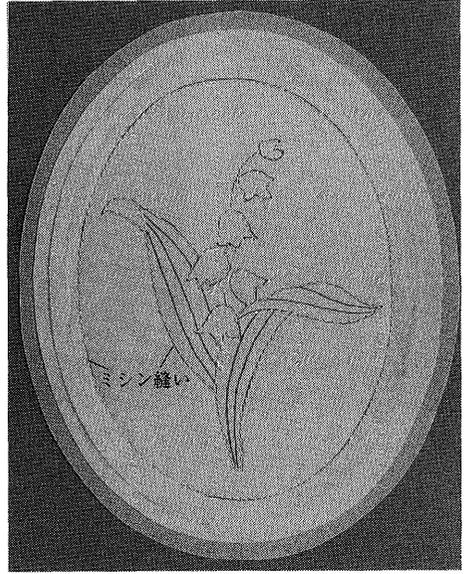


写真42 輪郭線にミシンをかける

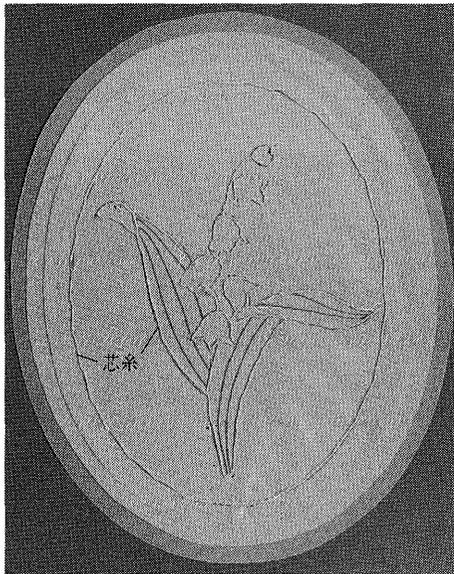


写真43 芯糸をわたす

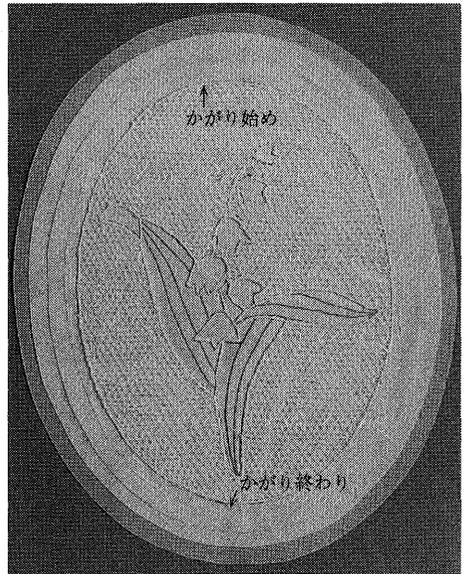


写真44 背景をかがる

### 3. 結果

サンプルを試作した結果、ニードルポイントレースは、その構成法から63サンプル中39サンプルを表2, 3, 4の通り分類づけることが出来た。ニードルポイントレースは以上のような基

礎的技法のみでなく、その多様な組み合わせ方により、無限に近い表現が可能である。分類づけられなかった24サンプルは、基礎技法を発展的に組み合わせたものであると言える。

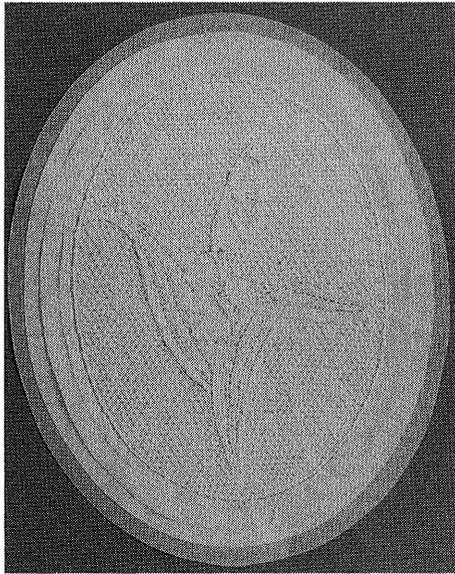


写真45 図案内部をかがる

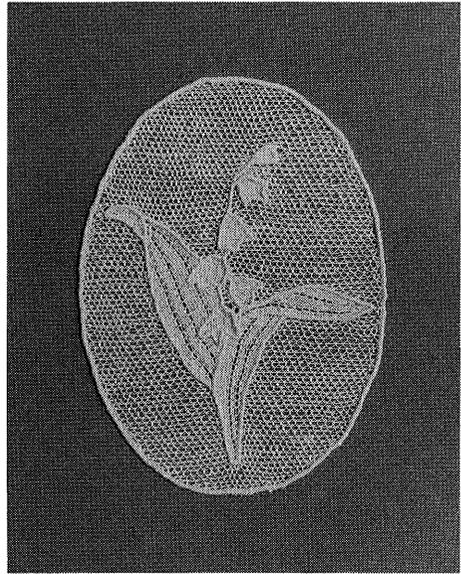


写真46 出来上り

#### Ⅳ ニードルポイントレースの製作方法

ニードルポイントレースの製作方法は以下の通りである。40番綿レース糸（白色）、80番麻レース糸（生成色）、メリケン針6号・9号を使用し、すずらんを図案としたモチーフの製作を段階的に示す。手法は、ニードルポイントレースにおいて最も多用されているかがり技法のベネチアンレースステッチとそのバリエーションを主とし、輪郭はロールステッチを施し立体感を表現した。

##### 1. 土台を作る（写真41）

① トレッシングペーパーに油性極細サインペンですずらんの図案を描く。

② ミューズコットンの上に和紙、①のトレッシングペーパーの順に重ね、グラシン紙で図案を覆い計4枚を重ねた。各々の使用目的は表5に示した。

##### 2. 図案の輪郭線に沿ってミシンをかける。

（写真42）

- ミシン糸は60番シャベスパン（白色）を使用
- ミシン目は少し粗めの2.5～3.5 mm 位とす

る。

##### 3. 図案の輪郭線の上に芯糸をわたす。（写真43）

40番綿レース糸を用いて2. のミシン縫いの糸を0.7～1.0 cm おきにすくい芯糸とする。芯糸は始めと終わりの糸を交差させてゆるまないようにしておく。

##### 4. 背景をベネチアンレースステッチで埋める。（写真44）

花の外側と外郭の楕円の間をベネチアンレースステッチで埋める。ベネチアンレースステッチとは、表3に示した通り面を構成するかがり技法であり、1段目は左から右へかがり技法で進み2段目は右から左へ直線でもどる技法である。

糸の始めは1～2 cm 芯糸にからげておいてからかがり始める。糸の終わりは最後の縁取りの中へくぐらせる。

糸は80番麻レース糸（生成色）、メリケン針9号を使用

##### 5. 図案内部をレースかがりする。（写真45）

図案の花はベネチアンレースステッチの間隔をつめて埋め、葉の部分は同じくベネチアンレ

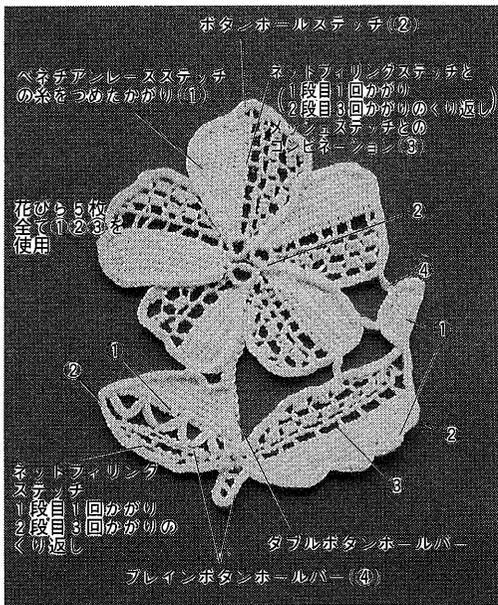


写真47 「花」のモチーフ(a)

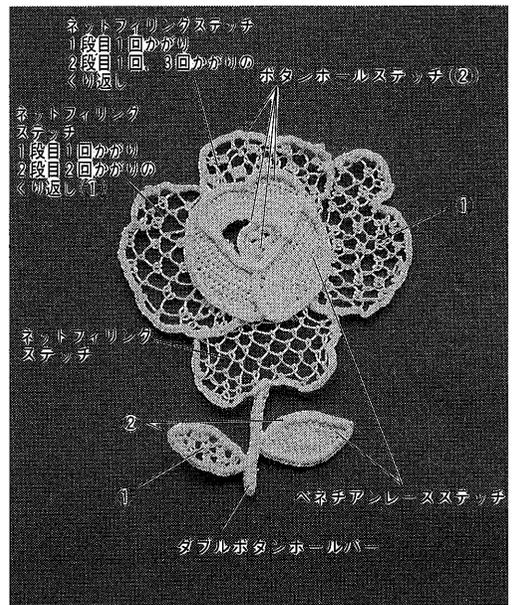


写真48 「花」のモチーフ(b)

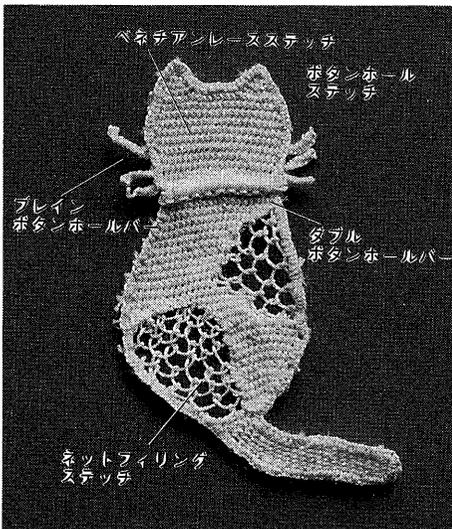


写真49 「ネコ」のモチーフ

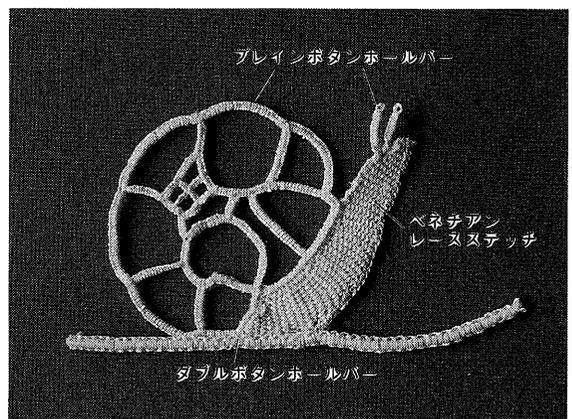


写真50 「カタツムリ」のモチーフ

ーステッチのバリエーション（間隔をあけたりつめたりしたもの）で埋める。

#### 6. 縁取り、仕上げをする（写真46）

① モチーフの輪郭、花と葉の輪郭、茎にロールステッチを施す。

② 空隙量を確保するために土台紙から切り

離す前にスプレー糊をかけ、自然乾燥あるいはアイロンをかける。

③ 2のミシン縫いの下糸を切り、土台の紙から切り離し、裏から再度スプレー糊をかけアイロンで仕上げる。

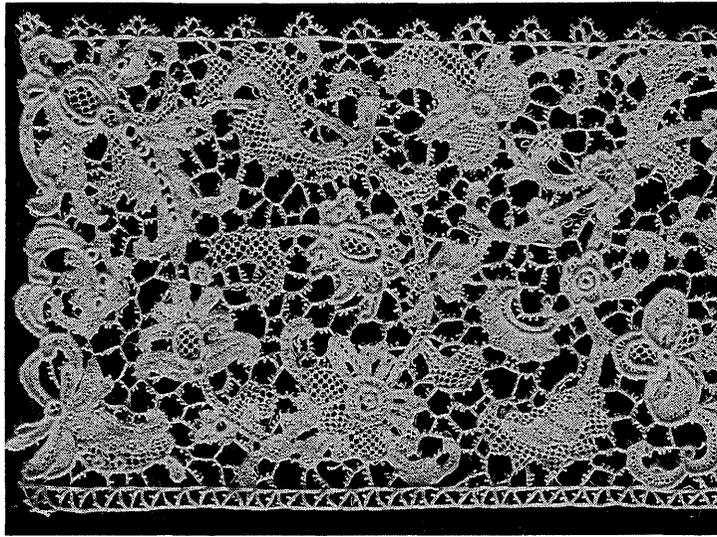


写真51 「襟」

## V ニードルポイントレースのモチーフ及び作品製作

Ⅲのニードルポイントレースの技法分析でかがり技法とつなぎ技法の分類をしたが、それらが作品の中で意図した効果を表現できたか、適切な技法が施されたかについて、モチーフ4点、作品3点をあげて検討した。

### 1. 「花」のモチーフ(a) (写真47)

- 使用糸 オリムパス40番綿レース糸（白色801番）
- 使用針 メリケン針6号

### 2. 「花」のモチーフ(b) (写真48)

- 使用糸 オリムパス40番綿レース糸（白色801番）
- 使用針 メリケン針6号

### 3. 「ネコ」のモチーフ (写真49)

- 使用糸 オリムパス40番綿レース糸（白色801番）
- 使用針 メリケン針6号

### 4. 「カタツムリ」のモチーフ (写真50)

- 使用糸 オリムパス50番綿レース糸（白色801番）
- 使用針 メリケン針6号

### 5. 「襟」 (写真51)

1) 製作意図「Trois siècles de dentelles」<sup>6)</sup>の図版からニードルポイントレースの中で最も古典的で基本といわれているベネチアンレースの襟を参考に、模造復元し、技法による各種の表現効果を把握する。

#### 2) 方法

- 使用糸 オリムパス40番綿レース糸（白色801番）（芯糸として外郭及び花・葉の輪郭，茎に使用）オリムパス70番綿レース糸（白色801番）
- 使用針 メリケン針6号及び9号
- 面構成の技法 ベネチアンレースステッチ，ベネチアンレースステッチのバリエーション，ネットフィリングステッチ，ロールステッチ計4技法
- 線構成の技法 リングピコットバー，ベネチアンピコットバー，プレインボタンホールバー計3技法

#### 3) 結果

ロールステッチを花の部分に施すことにより立体感を増し図案を明瞭に表現できた。密度の高いベネチアンレースステッチの花びらと各種ネットフィリングステッチにより段階的な透け

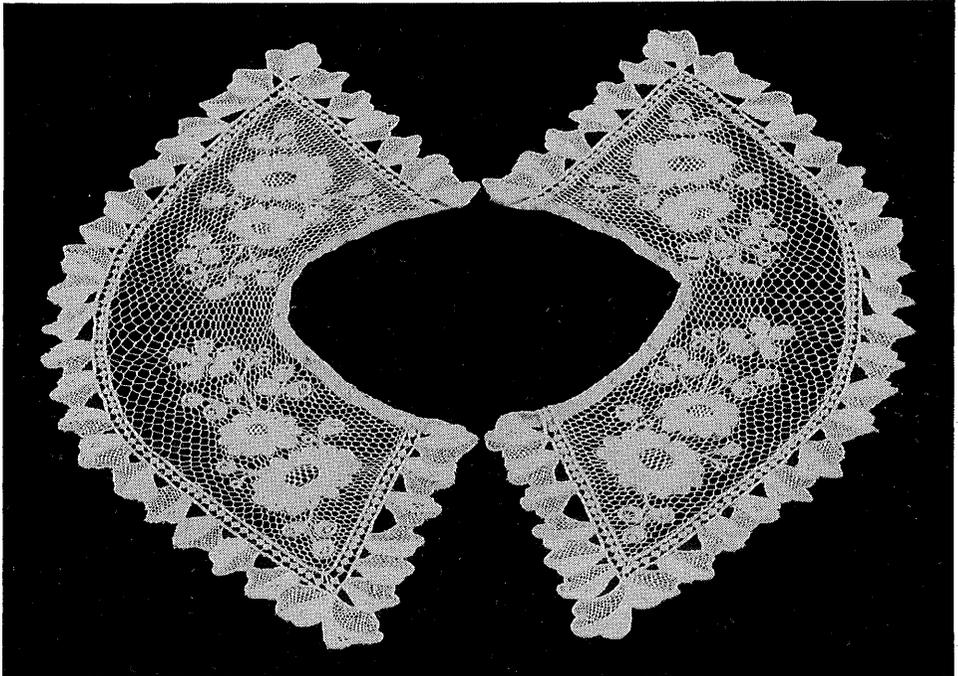


写真52 「襟」



写真53 「女兒エプロンドレス」

具合を表現できた。またピコ付きブリッドはピロを使用することで空間を確保し、大きさを均等に仕上げることができた。結果、ベネチアンレースの襟は技法による表現効果のある作品となったと言える。

## 6. 「襟」<sup>(5)</sup> (写真52)

1) 製作意図 古い文献によくあるデージーの花をアレンジしてモチーフとした。花をひきたてるようにするため、ダブルチュールステッチを用い背景の透かしを多くした。さらに全体を引き締め襟のアウトラインの役割を持たせるために、襟外周りに用いた葉のモチーフには透かしを少なくした。

### 2) 方法

- 使用糸 オリムパス40番綿レース糸（白色801番）（芯糸として外郭及び花・葉の輪郭、茎に使用）オリムパス50番綿レース糸（白色801番）、約26g使用
- 使用針 メリケン針6号及び9号
- 面構成の技法 ベネチアンレースステッチ、ベネチアンレースステッチのバリエーション、ネットフィリングステッチ、ネットフィリングステッチのバリエーション、ダブルチュールステッチ、フラットスパイダーステッチ計6技法
- 線構成の技法 ロールステッチ、ボタンホールステッチ、ダブルボタンホールステッチ計3技法

3) 結果 ダブルチュールステッチを用いることにより、また襟外まわりの葉のモチーフの透かしを少なくすることにより当初の目的は達成できた。

透かしの多い模様なのでピロの使用が作業上効率的であった。しかし透かしの目を均等に仕上げるための力加減には相当の難しさを感じた。

## 7. 「女兒エプロンドレス」<sup>(6)</sup> (写真53)

1) 製作意図 図案は女兒らしく、優しく清楚なすずらんの花をモチーフとし、ベネチアンレースステッチのバリエーションとボタンホールステッチによりフラットに表現して背景のベ

ネチアンレースステッチと同調させることで繊細なイメージを持たせた。

### 2) 方法

- 使用糸 オリムパス40番綿レース糸（白色801番）（芯糸として外郭及び花・葉の輪郭、茎に使用）ベルギー製（ボビンレース用）80番麻レース糸（生成色）、約30g使用
- 使用針 メリケン針6号及び9号
- 面構成の技法 ベネチアンレースステッチ、ベネチアンレースステッチのバリエーション、ベネチアンフィリングステッチ、ボタンホールステッチ計4技法
- 線構成の技法 ロールステッチ、ダブルボタンホールバー計2技法

3) 結果 ピロを使用することにより背景のベネチアンレースステッチを細かく密にかがることができ、意図した繊細な透かし模様という印象を表現することも出来た。

使用した麻レース糸に張りがあり、空隙量の確保が比較的容易であり作業能率がはかれた。古来麻レース糸が最も多く用いられていたのもこのためであろうと思われる。

## VI 考察及びまとめ

ニードルポイントレースの製作技法の構成要素を分析し、その特徴を把握することを目的として、サンプルの製作及び作品製作を行った。

サンプルを試作した結果、ニードルポイントレースの技法は、面を構成するかがり技法、線や面を構成できるかがり技法、線を構成するつなぎ技法とに3分類することが出来た。

日本ではニードルポイントレースを専門に製作している人はほとんどいないという状況の中で、空隙量を確保するための土台作りの資料もないため、現物資料を参考に試行錯誤した。その結果、土台作りとして重ねるものは、現物資料ほどの枚数は不要であることがわかった。そのため次のすずらんモチーフ作りでは簡略化して4枚としたが特に支障もなく作業することが出来た。また、広いスペースのかがりの時には

ピロの使用が効率的であり、小さなスペースの時には使わない方が効率的であることもわかった。

次に、分類した技法の特徴を意図的に反映させたモチーフ4点、襟などの作品3点を製作し、その効果を検討した。

その結果、すべての作品において各々意図した効果はかなりよく表現することが出来た。

ニードルポイントレースは、技法の多様な組み合わせ方により無限に近い表現が可能である。さらに、技法を適確に組み合わせることにより、意図する模様も構成も可能となる。

このようなニードルポイントレースの美しさをもっと多くの人々に知ってもらい、身近な服飾作品として利用してもらうためにも、今後は、製作技法を記号化するなどして、誰でもが気軽にニードルポイントレースに取り組めるだけでなく、より高度な作品も効率的に作業できる工夫をしたいと考えている。

最後に、本報告をまとめるにあたり、丁寧に指導いただいた上に貴重な資料をお貸し下さいました本学服飾手芸研究室 室長市川久美子教授に心よりお礼申し上げます。また、執筆に際しご指導下さいました第一被服研究室の佐藤眞知子教授にお礼申し上げます。

#### 註

註①「手芸百科事典」は著者テレーズ・ド・ディルモンがDMCの協力を得て設立した刺しゅう学校の教科書として1884年に出版されたハンディタイプの本であり、本研究では英語版（出版年不明）を用いた。

註②ポルトガル領マディラ島で本学市川教授が入手した製作の途中段階の作品。現在、当地のレース学校で実施されているものである。

註③グラシン紙 (glassine paper) とは亜硫酸パルプを原料とし、光沢を付けて透明に仕上げた薄紙。

#### 参考文献

- 1) 富樫慧子：文化女子大研究紀要6，p 31 (1975)
- 2) 田母神礼子他：三島学園女子大，短大研究紀要16，p 63 (1980)
- 3) 田母神礼子他：三島学園女子大，短大研究紀要18，p 41 (1982)
- 4) 伊沢政枝：文化女子大研究紀要22，p 55 (1991)
- 5) 伊沢政枝他：文化女子大研究紀要23，p 87 (1992)
- 6) Trois siècles de dentelles, Bruxelles, Musées Royaux d'Art et d'Histoire (1980)

#### 図版出典

- (1) Emily Reigate: An Illustrated Guide to LACE Antique Collectors' Club
- (2) M. リスラン＝ステーネブルゲン監修：ヨーロッパのレース (ブリュッセル王立美術館) 学習研究社
- (3), (4) Harry N, ABRAMS: LACE The Elegant Web Inc PUBLISHERS
- (5), (6) 文化女子大学研究委員会：文化女子大学・教員作品展・作品集第3集1991～1993 (1993) p 53, p 168